

# 英文学専攻 博士前期課程

## \*カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するため、英文学専攻(博士前期課程)には、英文学、英語学、通訳・翻訳、グローバル・スタディーズの4つのコースを置き、それぞれ文学作品とその背景にある思想・歴史・文化の研究及び批評、英語学・言語学の基礎理論及び方法論、通訳・翻訳の理論・技術及びそれに必要な専門領域の知識、国際社会における諸問題の性質と対策に関する理論と応用を、教授・研究します。その目的を達成するため、以下のような基本方針に基づくカリキュラムを編成します。

1 研究調査能力、言語運用能力、現場における実践的能力を養う科目を設定すること

2 専門的な知を有機的に結合し、学際的視野に立った総合判断力を養うことのできる教育課程を編成すること、具体的には、

i. 英文学コースにおいては、古今の英語で書かれた文学作品およびその批評などを通し、言葉の力や文学作品の重層性や解釈について学び、作品と、その背景をなす社会、文化、歴史などについて自らの視点を見出す能力を養成するような科目群を設置すること

ii. 英語学コースにおいては、言語科学の現代の課題に対処する能力を養成するため、英語学・言語学の基礎論理・方法論を学ぶことにより言語という営みの背景にある哲学、数理、対照言語学的視点を養うような科目群を設置すること

iii. 通訳・翻訳コースにおいては、通訳研究者として自立できるような能力を養成するため、経験豊かな通訳・翻訳者による演習、講義科目を設置すること

iv. グローバル・スタディーズコースにおいては、文化、政治、経済、社会とメディアの分野において豊かな学識を持ち、国際社会で活躍できるグローバル市民を養成するため、講義や研究を全て英語で行い、国際関係、メディアとコミュニケーション、ジェンダーと移民、グローバルビジネスおよび経済の各分野を深く研究することを可能にする科目群を設置すること

3 高度専門的なキャリア育成のための教育課程や科目を設定し、また高度専門職を目指す社会人学生に配慮した履修プログラムを提供すること

4 交換留学プログラムや国際プロジェクト等、国際的な研鑽や学術交流の機会をもうけること

5 修士論文・修士課題研究作成において、高度な専門性を追求するとともに、領域横断的・総合的な視座への研究課題の位置づけをうながす、研究指導体制をとること

上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。